令和７年度　学校評価表

雲南市立西小学校

めざす（期待する）子ども像		重点項目（具体目標）		担当者	評価指標・方法　A:85~ B:70~84 C:~69	アンケート肯定的回答% 児童	保護者	教職員	評価	取組の成果と課題、改善策	学校関係者評価 学校運営協議会委員からのコメント
自分と人とふるさとを愛し、心豊かでたくましい子どもの育成	①自ら学ぶ姿勢があり、よく考え、自分の言葉で表現できる子ども ②思いやりがあり、自分や人のよさを認め合って力を合わせる子ども ③少々のことではへこたれず、協力しながら最後まであきらめずにやろうとする子ども	（１）確かな学力の育成 ◎教育活動の目的とゴールの明確化 ◎コウノトリ学習を柱に、地域の教育資源を活用した問題解決学習の推進 ◎子どもが主体性を持ち、対話を通して自己の考えを広げられる学習場面の工夫	（１）確かな学力の育成 ①分かる授業、児童が関り合う授業の創造 ・子どもたちが主体的に学び合い、多様な考えが引き出せる活動 ・「ICTの効果的な活用」による授業改善 ②コウノトリ学習を大きな柱とした環境・ふるさと学習の充実 ・体験活動や地域のゲストティーチャーなど、本物から学ぶ学習の展開 ③家庭と連携した学習のあり方の検討 ・授業での学びと家庭学習をつなげていく。学力定着に向け子に応じて工夫。 ④学校図書館活用教育の充実 ・わくわく感をもって本に親しめる仕掛けづくり、図書館活用の充実	【研究・教務・学力向上・図書】 ◎岡・藤井・梅・小倉	・各教科等での取組の様子や記録等からみる児童の変容 ・全国学力調査（６年）、学力テスト（１～５年）、たつじんテスト（３・５年）結果と分析 ・児童・保護者・教職員アンケートで学力育成に関する項目（②、③、④、⑤、⑥、⑦）での評価の割合 ・宿題、自学の取組や内容 ・学校図書館貸し出し冊数	② 90 A ③ 79 B ④ 80 B ⑤ 83 B ⑥ 90 A ⑦ 91 A	② 90 A ③ 84 B ④ 87 A ⑤ 82 B ⑥ 89 A ⑦ 78 B	② 100 A ③ 92 A ④ 86 A ⑤ 92 A ⑥ 100 A ⑦ 100 A	A 89	・学習活動の中で、児童が「分かった・できた」というような達成感を感じることができ、児童の自尊感情を高めることにつながった。アンケートでは、学習したことが「よく分かる」という評価であり、児童は達成感を感じていると思われる。 ・全国学力学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均を上回っていた。一方、今年度より実施されたたつじんテストでは、基礎的な語彙の問題等に課題が見られた。この結果をもとに改善を図る必要がある。概ね研究での実践の成果が徐々に表れていると思われるので次年度につなげていく。 ・児童、教師ともに伝え合い、深め合うことができる学習を推進した結果、学習意欲が高まったり、課題解決の方法が広まったり、相手意識をもった表現方法に高まりが感じられたりした。 ・⑤の項目については、児童、保護者と教師の設問のニュアンスが違うため、教師の評価が低くなっている。設問を変える必要がある。また、児童・保護者も他と比べて評価が低くなっていることから、興味や関心をもって学習できるような授業づくりや家庭学習を工夫する必要がある。 ・コウノトリ学習は約９年を迎え、より効果的な取り組みになるよう工夫した。コウノトリ学習を柱として、地域の教育資源を活用し、ふるさとのよさを再認識できた。また、各学年が地域の特色ある「人・もの・こと」の教材化を進めて行い、児童にふるさとを愛する心が育まれている。 ・家庭学習については、宿題の提出率を考えると習慣化できている。時には、ICTを活用したり、授業とつながりのある課題を出したりして、意欲をもって家庭学習に臨めるようになってきている。しかし、児童が家庭で進んで宿題や自学に取り組んでいないという声もよく聞く。児童が主体的に宿題や学習に取り組めるように、課題の内容や出し方などを工夫していきたい。 ・学校図書館の貸し出し冊数については、昨年度と大きく変わらなかった。図書委員会が中心になり、本をたくさん借りるための取組を進めて効果があった。火曜日朝の地域ボランティアの読み語りの時間は、全校児童が静かにお話の世界を楽しんでいる。心が耕される良い機会になっている。	・全国学力調査の結果がよいというのは、長年の積み重ねの成果のあらわれである。 ・学習に対しての取組が年を重ねるごとに良くなってきた。 （特定の学年を見られての感想） ・タブレットの持ち帰りは重くて大変ではないか。特に低学年は大変ではないか。 ・どの学年の先生方も板書がきれいですばらしい。
		（２）豊かな心の育成 ◎人とのかかわりを通して、子どもたちが自分や相手の良さを認識できる教育の推進 ◎一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実 （特別支援教育・生徒指導の充実） ◎言語環境とふるまいの向上 （自分からあいさつ・礼儀、整理整頓・清掃活動）	（２）豊かな心の育成 ①認め合い励まし合える集団づくり ・子どものよさを生かすことで、みんなが主役になれる学級づくり ・道徳教育、児童会活動、係活動、なかよしタイム ②教育的ニーズに応じた支援 ・児童理解、教育相談体制、特別支援教育、合理的配慮、生徒指導組織対応 ③言語環境とふるまい向上 ・気持ちを伝えるあいさつ、あたたかい言葉がけ、片付け・清掃活動	【生徒指導・人権教育・特別支援教育】 ◎錦織・野津・福田・西	・各学期に行う児童の生活アンケートの結果 ・児童・保護者・教職員アンケートで、心の育成に関する項目（⑧、⑨、⑩）での評価の割合 ・アンケートＱＵ１回目と２回目の差異	⑧ 82 B ⑨ 96 A ⑩ 92 A	⑧ 90 A ⑨ 94 A ⑩ 79 B	⑧ 92 A ⑨ 85 A ⑩ 50 C	B 84	・どの学年の児童も新型コロナウィルス感染症の影響で集団で学習したり、活動したりする経験が少ない児童たちである。そのため対人関係をうまくできるようになかよしタイムや児童会活動、縦割り班活動などを通して対人コミュニケーションを育むように行っていった。児童相互のコミュニケーション能力も少しずつではあるが、回復しつつあるように感じている。今後も異学年交流や学級内での児童相互のかかわりを積極的に行っていく必要があると考える。 ・特別支援教育部や生徒指導部が合同でケース会議を行うことで、困り感のある児童を中心にその児童たちのニーズに応じた支援を提供することができた。また、担任以外の教育相談や教職員がチームとして児童にかかわることで、児童の成長を支えることができた。 ・地域講師や地域住民、他校・園の児童・生徒などのかかわりの中で、自分のふるまいを見直し、高めていくことができつつある。さらにかかわりの場を積極的に設定し、他者意識や地域の一員としての自覚を高めていくようにする必要がある。 ・世界人権週間に合わせ校内でも人権標語、ハートカード、人権に関する図書の紹介、全校人権集会など様々な活動に取組み、人権への意識の向上を図った。 ・挨拶に関して保護者、教職員の評価に比べ児童の肯定的評価が高いのは、教室で一斉に行う挨拶ができていることに起因していると考える。実際には登下校時において挨拶はできていない児童が多い。挨拶が自然にできる、日常的で当たり前にできるように学校や家庭、地域が連携して取り組める活動を行っていく必要があると考える。 ・清掃活動は熱心に取り組むことができている。この伝統は大切にしていきたい。	・不登校のお子さんもおられるが、民生児童委員として学校に向かうように出来なかったことが心残りである。 ・おんせんキャンパスに通うための整備がされるとよい。一方で、様々な交通機関を使って通うことも社会勉強になる。 （委員自身のお子さんがそうであった。） ・児童のあいさつについて今一つと感じている。元気がない。中学生は声をかけると返してくれる。朝が早く、朝ごはんを食べているのか心配である。帰る時は声を返してくれる。声をかけると返ってくる子や来ない子もある。個性でもある。 ・何のために挨拶をするのか、この人がこの地域にいると知るため、道徳的に、また、集団に入る確認行動である。子どもは必要性を感じていないからしない。挨拶とは、自分の心を開いて相手の気持ちを受け入れる気持ち。→普通にできるように、声をかけ続ける。
		（３）心身の健やかな成長 ◎人とのかかわりを通して、子どもが自分やあいてのよさを認識できる教育の推進 ◎家庭や地域と連携して取り組む望ましい生活習慣の確立	（３）健康教育（健やかな心身）の充実 ①体育学習や、いわくまの森を活用した体力・運動能力を高める取組 ②メディアに依存しない生活習慣づくり ・早寝早起き朝ごはん、メディアとの上手な付き合い方の指導 ③ 安全に行動できる力を育む教育活動の推進 ・子ども自らが危機管理能力を高める指導（避難訓練）	【体育主任・保健指導】 ◎三浦・山根・松村	・体力テストの結果 ・「げんきアップカード」、「家族でガンバルウィーク」を実施し、早寝早起き等基本的生活習慣や、メディア接触について自己評価や保護者コメントから達成状況を把握 ・視力検査や歯科検診等検診の結果 ・児童・保護者・教職員の健やかな成長に関する項目（⑪、⑫、⑬）での評価の割合	⑪ 87 A ⑫ 78 B ⑬ 88 A	⑪ 70 B ⑫ 42 C ⑬ 80 B	⑪ 85 A ⑫ 29 C ⑬ 86 A	B 72	・体力テストの結果を振り返ると、女子は比較的高い平均であったが、男子は全国、県平均からは少し劣る形であった。学校全体としても、体力づくりを活性化させていきたく思う。解決策としては、体力向上に向けた取組を定期的に行う必要がある。（具体的には、業間休みに全校で校庭を走る、縄跳びをするなど） ・基本的な生活習慣、メディアオフへの意識が高まっている。元気アップカードやガンバルウィークを実施した効果が表れているのではないか。保護者と一緒に継続して取り組んでいきたい。 ・視力検査の結果から、全体的に視力が低下傾向にある。原因としては、メディアやゲームの時間が増加していることではないかと想像する。その結果、外で遊ぶ時間も減少してしまうため、体力向上にも関係しており、悪循環ができてしまっている可能性が考えられる。 ・歯科検診に結果から、歯肉異常（歯石・歯垢）が多くの児童で見受けられた。原因としては、歯磨きの仕方、回数などに問題があるのではないかと思われる。朝昼晩の三回、正しく歯磨きを行うことで、少しは改善を図れるのではないかと考える。 ・姿勢改善に関する取り組みを実施した。具体的には、保健指導、外部講師による姿勢学習、健康集会、朝学習と体育の導入の時間による運動など、様々な取り組みを行うことができた。	・姿勢改善の取組により、4月に比べるとよくなってきている。 ・タブレットは画面も小さく、子どもは画面に近い。視力や姿勢も悪くなるのではないか。 ・実際には、家ではスマートフォンを使っている。学校だけの責任ではない。
		（４）信頼される学校づくり （めざす子どもの姿を支える土台）	①家庭や地域の願いを大切にし、信頼に基づいた学校運営・学級経営 ②保幼こども園や中学校との連携 ③子どもが安心して学べる教育環境の整備、危機管理体制の確立	【総務】 ◎大床・石橋・黒目	・保護者、地域からの声（連絡帳等、各種会合等） ・児童・保護者・教職員の健やかな成長に関する項目（⑭、⑮）での評価の割合	⑭ 90 A ⑮ 95 A	⑭ 87 A ⑮ 89 A	⑭ 100 A ⑮ 93 A	A 92	・学校からの情報発信については、保護者からの評価が約87%、全体的にも高評価だった。一方で約１割の児童・保護者は不十分と感じていることや自由記述にある教職員の指導の在り方やふるまいなどの意見を真摯に受け止め、今後も丁寧な対応を心がけ理解を求めていく。 ・通知表が前・後期となり、1学期の児童の様子を保護者が知る機会がなかったので、来年度から1学期終わりに保護者面談の機会を設定する。 ・保幼こども園や中学校との連携については、進学に向けて2学期から訪問を行うなどして情報共有を図り、支援体制を整えるよう努めた。 ・教育環境の整備、危機管理について全体的に高評価ではあったが、自由記述に体育でのけが防止や施設の老朽化による不安や避難についてなど安全面への配慮への具体的な指摘があった。体育での指導方法や施設点検や避難方法など検討し、改善を図っていく。	・児童数減（保護者数減）に伴い、学校の環境整備など地域として支えていく仕組みづくりがなされていくとよい。地域とＰＴＡと協力していく必要があるのではないか。地域の高齢化も危惧される。 ・複雑化した社会において、家庭との融合性が重要である。学校のことを理解してもらい、学校だけの責任に終わらないようにすべきである。 ・バス通学について、人数減で一人になる児童をバスでの登下校にできないのか。規定はあるが要望していく必要はある。

アンケート尺度　４・・そう思う　　３・・どちらかといえばそう思う
２・・どちらかといえばそう思わない　　１・・そう思わない

R７⇒１総務⇒１総括⇒06学校評価⇒R７学校評価⇒R７西小学校学校評価